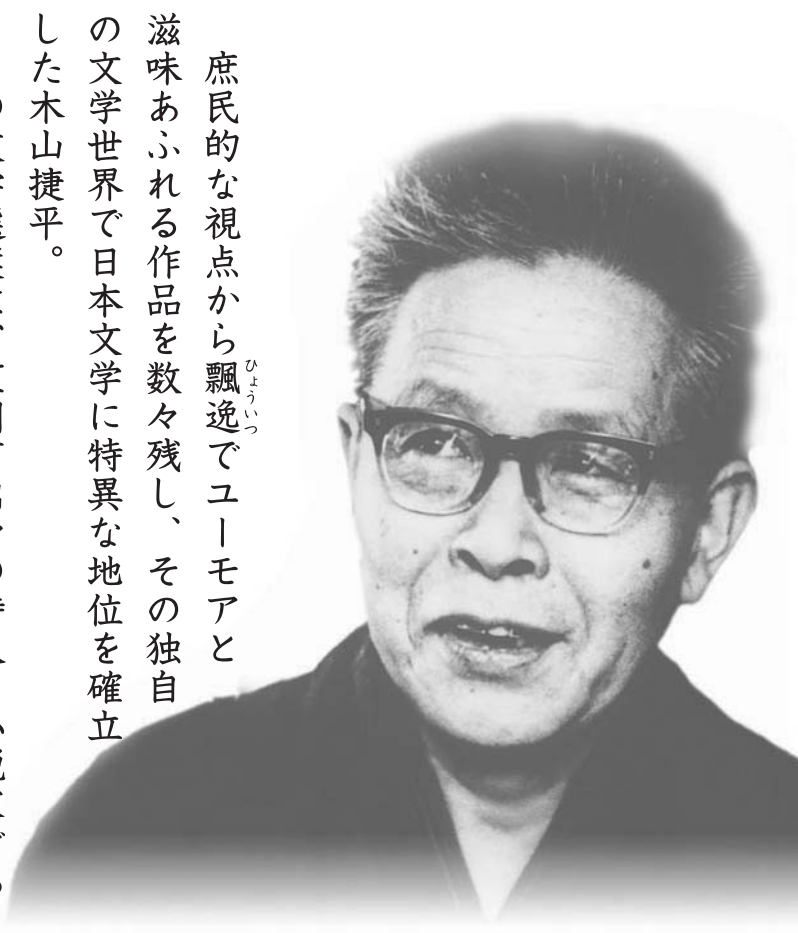


第二回 笠岡市 木山捷平文学選奨



庶民的な視点から飄逸^{ひょういつ}でユーモアと
滋味あふれる作品を数々残し、その独自の
文学世界で日本文学に特異な地位を確立
した木山捷平。

この文学選奨は、笠岡市出身の詩人・小説家である
木山捷平の功績を顕彰するとともに、文学の振興及び
豊かな芸術文化の高揚を図るために創設されました。

木山捷平短編小説賞

新人で未発表の新作を対象とした
短編小説部門には、全国から二二七
点の応募がありました。
予備選考を経て七作品に絞られ、
その中から広島市佐伯区の、木下訓
成さんの『マルジャーナの知恵』に
決定しました。

筆者プロフィール



きのした くにしげ
木下 訓成さん

昭和十年生まれ。福山市出身。早
稲田大学法学部を卒業。商事会社を
定年退職後、友人の勧めで小説を書
き始めた。

『マルジャーナの知恵』 あらすじ

木村啓之助は72歳で、数年前に大
工仕事から引退している。彼の唯一
の趣味はキノコ狩りである。

ある晩秋の早朝、近隣の極楽寺山
へ「アカモミタケ」の採取に出かけ
るが、込み入った間違いやすい場所
なので昨年、目印のために馬酔木の

幹にビニールテープを巻きつけてお
いた。ようやくその目印を見つけて
灌木の中へ入り込むが、なかなか目
的のシロが見つからない。

と、かなり下の方からの物音を聞
きつけたので下りてみると、自分の
シロで十歳くらいの少年が、すでに
「アカモミタケ」をほとんど採りつ
くしていた。

少年との会話がすすむうち、その
少年が啓之助の子供の頃の同級生で
彼がひそかに思いを寄せていた女性
の孫であることが分かった。

マルジャーナとは、もちろんあの
『千夜一夜物語』の中の「アリババ
と四十人の盗賊」に出てくる、賢い
女性の名前である。

風土の特徴が掴まえられてあり 小説の愉しさが際だっていた 選考委員 佐伯一麦氏(小説家)

森の姿が目の前に見えてくるよう
な観察眼の生きた精緻な自然の描写
がよかった。極楽寺山から見える穏
やかな瀬戸内の海のたたずまいも印
象的だった。

老人と少年とのキノコをめぐるつ
のたましあいには、世代の対比を超
えた人間同士の触れ合いが感じられ
そこはかとないユーモアも漂ってい
る。